

学年	教科等	単元名	日時
第5学年	社会科	公害をこえて～自分たちで守る環境～	令和6年2月9日(金)

1 本時の目標

これまで学習したことを基に根拠を明確にして、住民・行政・企業の立場から国土の環境保全について考えたり、自分たちに協力できることを選択・判断したりして、表現することができる。

2 指導過程

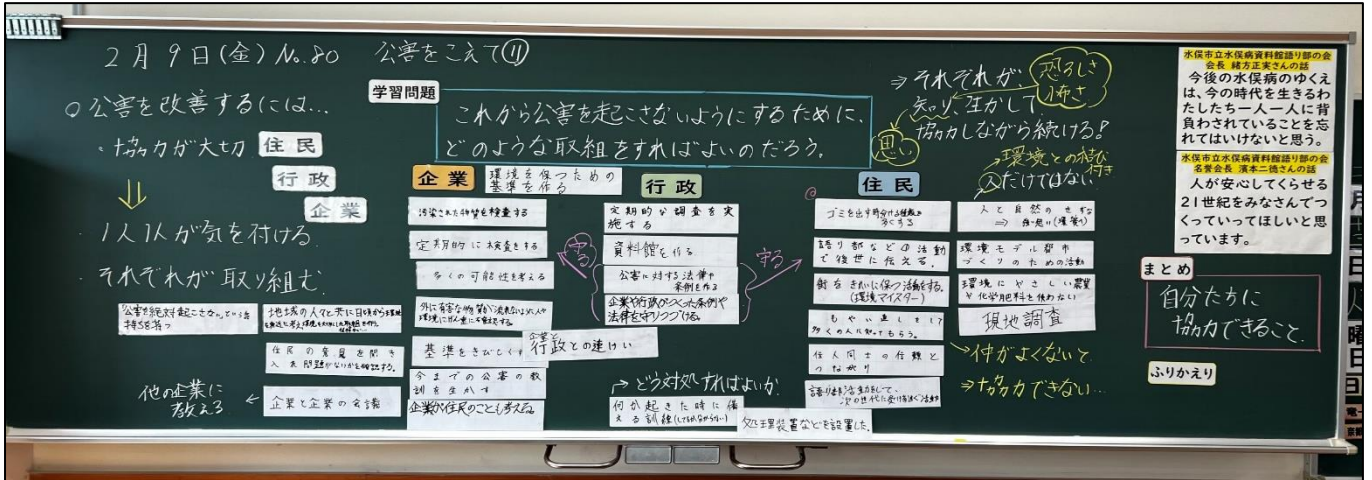
学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て					
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <p>○ 前時までの復習</p> <ul style="list-style-type: none"> 公害防止の取組の共通点 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 「環境を改善するには長い時間がかかる。」 「改善するためにも防止するためにも、みんなで協力している。」 </div> <p>○ 本時の学習問題（テーマ）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>これから公害を起こさないようにするために、どのようなことができるのだろう。</p> </div> <p>2 本時の学習について見通しをもつ。</p> <p>○ 考える立場の選択</p> <p>○ 自分たちに協力できること</p> <p>3 国土の環境保全について住民・行政・企業の立場からできることを考え、話し合う。（★）</p> <p>○ それぞれの立場からできること</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ→全体 <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 住民の立場（例） 企業や行政の取組について調べたり、地域の活動に参加したりする。等 </td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 行政の立場（例） 公害の問題への対策を考え、住民に知らせてもらうための努力を続ける。等 </td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 企業の立場（例） 自分たちの利益も大切だが、環境への配慮をして生産や販売をしていく。等 </td> </tr> </table> <p>4 自分たちに協力できることを選択・判断する。（★）</p> <p>○ 水俣病にかかわる人々の話</p> <table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 語り部の会の方の話 「今後の水俣病の行方は、今の時代を生きるわたしたち一人一人に背負わされていることを忘れてはならない。」（一部抜粋） </td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 水俣病患者の話 「人が安心して暮らせる21世紀をみなさんでつくってほしい。」（一部抜粋） </td> </tr> </table> <p>○ 自分たちに協力できること</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 「公害を起こさないための法律にはどのようなものがあるかを調べ、その法律を守るようにしたい。」 「物を買うときには、環境に優しい製品なのかを調べたり考えたりして選ぶようにしたい。」 「地域での奉仕活動がいつ行われているかを調べ、自分も参加したい。」 </div> <p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <p>○ ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いで使用した資料の効果 	住民の立場（例） 企業や行政の取組について調べたり、地域の活動に参加したりする。等	行政の立場（例） 公害の問題への対策を考え、住民に知らせてもらうための努力を続ける。等	企業の立場（例） 自分たちの利益も大切だが、環境への配慮をして生産や販売をしていく。等	語り部の会の方の話 「今後の水俣病の行方は、今の時代を生きるわたしたち一人一人に背負わされていることを忘れてはならない。」（一部抜粋）	水俣病患者の話 「人が安心して暮らせる21世紀をみなさんでつくってほしい。」（一部抜粋）	<p>○ 「みんなで協力する。」という発言に対し、「みんなとは具体的に誰ですか。」と問い返すことで、住民・行政・企業の立場から公害防止の取組を考える必要性に気付くことができるようにする。</p> <p>○ 「公害防止のためにどのようなことが行われていましたか。」と問うことで、公害防止の取組を想起し、学習したことを基に考えるという見通しをもつことができるようにする。</p> <p>○ これまでに作成した年表や図表、学習支援アプリ内の資料等を確認している姿を価値付けることで、既習内容を生かして考えようという思いをもつことができるようにする。</p> <p>○ 話し合いの際に、自分の考えの根拠となる資料を提示している子どもを価値付けることで、どの立場のどのような取組を基に考えたのかを明確にして話し合うことができるようにする。</p> <p>○ 「『一人一人』や『みなさん』とは誰のことですか。」と問うことで、国民一人一人の協力の必要性に気付く、国民の一人として自分たちに協力できることを考えようという思いをもつことができるようにする。</p> <p>○ 「どの立場の取組にどのような協力ができますか。」と問うことで、「3」で話し合ったことを基に自分たちに協力できることを選択・判断することができるようにする。</p> <p>○ ふりかえりを記述し、仲間と共有する時間を設定することで、資料を用いて自分の考えを伝えることよきにつけ、次の学習に生かしたいという思いをもつことができるようにする。</p>
住民の立場（例） 企業や行政の取組について調べたり、地域の活動に参加したりする。等	行政の立場（例） 公害の問題への対策を考え、住民に知らせてもらうための努力を続ける。等	企業の立場（例） 自分たちの利益も大切だが、環境への配慮をして生産や販売をしていく。等				
語り部の会の方の話 「今後の水俣病の行方は、今の時代を生きるわたしたち一人一人に背負わされていることを忘れてはならない。」（一部抜粋）	水俣病患者の話 「人が安心して暮らせる21世紀をみなさんでつくってほしい。」（一部抜粋）					

3 本時の評価規準

これまで学習したことを基に根拠を明確にして、住民・行政・企業の立場から公害防止の継続的・協力的な取組について考えたり、自分たちに協力できることを選択・判断したりして、表現している。

(思考・判断・表現)【記述分析・発言分析】

4 板書



5 指導講評

宮崎県教育庁 義務教育課 島崎 博英 指導主事

- 子どもが社会的な見方・考え方を働かせるためには、教師の発問が必要である。本時は教師の発問を基に、子どもが社会的な見方・考え方を働かせて学習問題がつくられていた。
- 本時は、第3学年はまとめを一つに収束し、第5学年は個に委ねていた。発達段階や授業の目的に応じて、まとめをどうするのかを考える必要がある。
- 子どもが本当に問題を自分事として捉え、試行錯誤しながら学習できるような授業を考える必要がある。

6 考察

- 本時の学習問題(テーマ)「これから公害を起こさないようにするために、どのような取組をすればよいのだろう。」について、子どもがこれまで学習したことを基に考えたり話し合ったりする姿が見られた。本時は、子どもが住民・行政・企業から立場を選んでそれぞれの取組について考える活動を設定したことで、学習したことを根拠にして考えることができたのではないかと考える。
- 本時は、ふりかえりで「これまでの資料を生かすことができたか」と「資料を生かしてどうだったか」という視点を与えたことで、これまでの資料を根拠として考えたり話し合ったりすることのよさに気付いた子どもがいた。
- 子どもの思いや社会に見られる課題に沿って本時の学習問題(テーマ)を設定したため、単元の学習問題と本時の学習問題(テーマ)が同じ内容になってしまっており、本時のまとめと単元のまとめの差異がなくなっていた。単元の学習問題を解決するために、1単位時間でどのような内容を学ぶのかを明確にした単元構成を行っていく必要があると考える。
- 自分たちの生活や社会と結び付けるためのテーマとして、企業・行政・住民の立場から考える活動を設定したことで、子どもはこれまで学習したことを基にそれぞれにできることを考えた。目に見える事実を基に、そこから目に見えないもの(人々の思いや願い)に着目させることで、より深く考えることができるのではないかと考える。
- 本時の終末において、「公害を起こさないようにするために、自分たちに協力できること」を考える活動を設定したが、子どもは自分たちの生活と結び付けて考えることができなかった。今回は、四大公害病を中心に取り扱ったが、宮崎市や宮崎県で起こった公害を事象として取り扱うことで、子どもはより身近な問題として自分たちの生活と結び付けて考えようとしたのではないかと考える。
- 本時のふりかえりににおいて、教師から視点を与えてふりかえる時間を設定したが、子どもが自ら「今日どのような学習をしたのか」や「今日の授業をとおして何を感じたのか」等をふりかえりたくなるような手立てを追究していく必要があると考える。